キャラクター名: メディコ･デッラ･ペステ

プレイヤー名:

シンドローム	ブラム＝ストーカー エグザイル	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	不明	性別	不明
覚醒	生誕	衝動	加虐	初期侵食率	32 %
出自	使命	経験	殺戮の日々	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	2			6
感覚	3	0	0			3
精神	1	0	1			2
社会	1	0	0			1

HP	34
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	2		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
骨の剣	白兵	6r+4	6	8		
手術開始　100↓	白兵	9r+4		8		C値-2　装甲無視　HP-2　12回復
手術成功　100↑	白兵	10r+4		9		C値-3　装甲無視　HP-2　16回復

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
変態	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
ロイス:対抗種[カウンターレネゲイド]	P	N		
ヨキアム	P　庇護	N　恐怖		
復讐者	P おや?患者かな?	Nなぜ怒ってる?		
遠野　云玄	P　尊敬	N　不安		
焼死体	P	N		
永時　勲	P 治療したい	N 治療したい		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
オリジン:レジェンド	1							
効果：								
ヒューマンズネイバー	1							
効果：								
コンセントレイト：ブラム=ストーカー	2	2	メジャー					
効果：	C値ーLV							
骨の剣	3	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果：	素手のデータ変更							
渇きの主	3	4	メジャー	至近	単体	対決		
効果：	装甲無視　『LV×４』回復							
鮮血の一撃	2	2	メジャー	武器		対決		
効果：	ダイス＋『LV+１』　HP２消費							
餓鬼魂の使い	2	2	オート	至近	単体	自動		
効果：	シーンLV回　ランク３邪毒							
擬態の仮面	1							
効果：	姿を変える							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

とある組織に幽閉されていたレネゲイドビーイング。
不安定な状態で覚醒していたのか自我は殆ど存在しない状態だったため、衝動のままに人間を『治療』と称して殺害していた。
が、とある存在と対話したことによりはっきりとした自我が芽生え、比較的穏やかな性格になる。
この頃からレネゲイドビーイング特有の人を理解したいという衝動も現れた。

それ以来人を『治療』するだけでは患者を真の意味では理解できないのでは？と疑問を覚えはじめ、『治療』の最中に患者に話しかけてみたり試行錯誤してみたが、イマイチ成果が得られず悶々としていた時に■■　■■が現れる。
■■　■■に導かれるままに組織を脱出したSCP－■■■はUGNに確保され、協力関係を結んだ。

UGNに協力し始めてからの彼は穏やかに愛想よく人を『観察』している。

普段はその目立つ外見を隠すため人の姿に変身(UGN側の要望)しており、その際の性別や容姿はその時の気分による。「患者の信頼を得るには外見も大切なのだろう？」という理由である程度見目麗しい姿に変身する傾向がある。

戦闘は本人曰く『治療』。どこからともなく取り出したメス(おそらく自分の体の一部かと思われる)で敵を切りつけ、傷口に毒をうち込む。

かつて『治療』と称して行っていた虐殺について悪いことをしたとは微塵も考えておらず、現在UGNに協力しているのも『より患者を知ることで苦痛なく、かつ効率的に治療する方法を編み出す』という目的のためである。

全てはより多くの人々を『悪疫』から救うために。
この世の『悪疫』をなくすことこそ彼の生涯の義務なのだから。